

Ⅱ 全体会の概要

開催日 平成23年11月5日（土）

会場 イイノホール

趣旨・概要

開会行事・開会式に加えオープニングセッションを設け、全国生涯学習ネットワークフォーラムの開催趣旨を説明するとともに、各分科会の課題・方向性を提起しました。

全体会内容

平成23年11月5日（土）

(1) 開会行事「雄勝復興輪太鼓の実演」（石巻市立雄勝中学校）

- 石巻市立雄勝中学校生徒約50人が、廃タイヤと荷造り用ラップを利用して作った“輪太鼓”による演奏を披露しました。生徒たちは、自分たちが生まれ育った地域の復興への願いを込め、地元の伝統芸能である「伊達の黒船太鼓」を実演し、勇ましい音をホールに響かせました。

（生徒たちのメッセージ）

- ・ 雄勝の伝統黒船太鼓を、私達が継続していくことでもっと雄勝町をPRしていくことが出来ると思う。これから雄勝を今まで通りにしていくため、私たちはまた頑張っていきたい。
- ・ 支援をして頂いた沢山の方々への感謝の気持ちと、自分たちが強い気持ちで前進していくのを伝えられる様に叩いた。あと、少しでも被災地の方々に元気を与えられる様に気持ちを込めて叩いた。
- ・ 東日本大震災で全てが流された悲しい気持ちがあり、そんな無慈悲な天災に怒りを覚え、生徒が全員無事だったことに喜びを覚え、友達と学校に通えることに楽しさも覚えた。この一人一人の様々な思いで、この黒船太鼓が出来上がったのだと思う。





(2) 開会式

中川文部科学大臣による挨拶等

(中川正春文部科学大臣 挨拶全文)

はじめに3月11日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますと共に、御遺族と被害にあわれた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

先ほど、雄勝中学校の生徒の皆様の演奏を聞きました。生徒の思いが太鼓を演奏していくなかで逞しさに昇華していくと、そんな姿を見たように思います。心から感動致しました。子どもたちも頑張っている。先生方も頑張っている。改めて、私たちもしっかりと応援をしていきたいと思っております。



この第一回全国生涯学習ネットワークフォーラム、まなびピア2011の開催にあたり主催者として新たに一言を御挨拶致します。本年は、東日本大震災の発生などによりまして、我が国を取り巻く環境は益々厳しさを増しつつございますが、この未曾有の大惨事から立ちあがる為に被災地の人々とボランティア活動等に参加している多くの方々が連携し、様々な形で復興に向けて取り組んで頂いています。このような取組を拝見し、改めて人の絆、いや地域のコミュニティの重要性を再認識をしているところであります。

全国生涯学習ネットワークフォーラムは生涯学習の普及、啓発を目的とした生涯学習フェスティバルから人々の学習の成果を社会的な課題の解決に生かし、地域の絆や地域コミュニティの再生をはかる取組を全国的に推進することを目的に第一回を岩手県で開催する予定でございました。しかしながら、震災が発生したため、急遽、文部科学省に実行委員会を設置致しまして、全体テーマを「学びを力とする3.11以降の地域づくり、社会づくり」として開催することと致しました。本日から2日間に亘り5つの分科会において生涯学習を通じた新しい社会づくりについて研究協議を行います。各分科会には、被災地をはじめとした全国各地から様々な実践活動に取り組む学校や団体・企業等多様なジャンルの関係者の方に参加を頂いております。これを契機に参加される皆様の間でネットワークが築かれ、生涯学習を通じた新しい地域づくり、社会づくりに向けたより良い活動が全国各地で花開きますことを願っております。

結びに、まなびピア2011の開催にあたり、多大なる御尽力を頂きました実行委員会や企画実施委員会をはじめ関係の皆様の御支援・御協力に対し、心から感謝を申し上げますと共に、今フォーラムが実り多いものになるように御祈念致しまして、開会の御挨拶と致します。ありがとうございました。

(3) オープニングセッション

本フォーラム開催の経緯・狙い及び新しい公共による社会づくりに関する説明の後、各分科会からそれぞれのテーマの背景や課題に関する説明が行われました。

■大宮委員（実行委員会座長）

- ・ 「学びを力とする3.11以降の地域づくり・社会づくり」をテーマとする本フォーラムの狙いは、生涯学習の成果を地域や社会の課題解決に生かす取組の全国展開のきっかけの場とすることと参加者間のネットワークづくりの推進である。

■鈴木前副大臣

- ・ 様々な人たちが協働して新しい公共サービスを提供することが「新しい公共」の考え方である。
- ・ 今回の震災復興には、伝統を引き継ぎながらも22世紀の未来を先取りした地域づくり、社会づくりができる人づくり（創造的復興教育）が必要である。
- ・ 社会全体として、皆が一緒になった上で、創造的な取組を率先して行うべきだ。

■貝ノ瀬委員（第1分科会）

- ・ 今回の震災の極限的な状況下で人々を支えたのは人と人の絆であった。震災を契機に地域コミュニティの再生と新しい地域づくりが改めて問い直された。我々の分科会を参加者どうしの絆づくり、ネットワークづくりに向けた気づきの機会にしていきたい。

■中林委員（第2分科会）

- ・ これからの防災教育に必要なのは、自らの命を守る力をつけることである。すべての地域であらゆる人々が自ら学び様々な状況に応じて適切に災害に対応できる能力と行動力を身に付けることを目指し、これから求められる防災教育について考えていきたい。

■牧野委員（第3分科会）

- ・ 震災の発生によって、自らが直面した課題を自ら解決しなくてはならない状況に陥ったが、実は、震災以前から、経済的転換や高齢社会の形成といった社会的な構造の転換が既にこのような解決を求めていると言える。

この転換期にあっても、我々は、伝統を引き継ぎながら新しいものを作り出していく力を有しているのではないか。それらを背景に高齢社会の在り方を考えていきたい。

■神成委員（第4分科会）

- ・ メンバーとして参画した復興構想会議では、ICTを積極的に活用した新しい地域づくりに関する話題が多く挙がった。ICTは、様々な情報をつなぎ、地域をつなぎ、様々な教育を更に活性化する大きなツールになっている。ICTを使った創造的な新しい教育を紹介したい。



■松田委員（第5分科会）

- 3.11後の若者のボランティア活動は、様々なところで注目された。今回の協議を、若者が震災ボランティアにおいて何を感じ、現地の方々に何をもたらしたかを言葉に残し、また、それを通して若者の活動を支えていく仕組みを作るきっかけにしたい。

